

第42回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会①】

日時：2024年4月10日（水）

部会①・部会③ 10:00～11:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

次 第

【部会①】

(1)開会

(2)4街区外構（高輪辻広場）の調査方法について

【資料1】

(3)その他

(4)閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

第 41 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会①）

前回議事録

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和 6 年 3 月 6 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール 5A
- 出席者：

表 出席者一覧

| | |
|--------------------------------|---|
| 委員長 | ・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授） |
| 委員 | ・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） |
| オブザーバー | ・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・東京都 交通局 建設工務部 計画改良課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・鉄道博物館 学芸部 ・JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 |
| 事務局 東日本旅客鉄道(株) 京浜急行電鉄(株) | ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 他 |
| サポート | ・パシフィックコンサルタンツ株式会社 |

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 40 回委員会（2/7）部会①議事録案
- ・ 資料 2：第 40 回委員会（2/7）部会②議事録案
- ・ 資料 3：第 40 回委員会（2/7）部会③議事録案

2) 部会①

- ・ 次第
- ・ 資料 1：4-2A 街区 建物杭の調査について（報告）
- ・ 資料 2：京急連立事業（1 工区）に伴う埋蔵文化財調査成果について（報告）
- ・ 資料 3：4-1 街区 設備・外構工事計画について
- ・ 資料 4：拡張された北横仕切堤の移築保存について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 41 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 40 回委員会 (2/7) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 40 回委員会 (2/7) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 40 回委員会 (2/7) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会①

(1) 開会

- 第 41 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会①を開会する。(事務局)

(2) 4-2A 街区 建物杭の調査について (報告)

資料 1 について説明する。(港区)

〈4-2A 街区調査について以下の点を資料説明〉

- ボーリング調査で EV・ESC ピットの調査や4-1 街区南横仕切堤付近の調査でも確認された炭ガラ層を確認
- 炭ガラ層は明治 30 年地図より水溜と関連すると推測
- 全てのボーリングコアで自然堆積層を確認しており、粘土採掘坑のような遺構は無いものと想定
- この街区の建物はまちづくりの拠点となる施設であるため、このまま工事を進めていくことについてご理解をいただきたい。(JR)
- 炭ガラ層が多く出てくるが、蒸気機関車で使った炭が捨てられた可能性が考えられる。蒸気機関車の運用に詳しい方に意見を聞き、検討するとよい。(古関委員)

→ 炭ガウ層は検出されたほかの箇所も含めて見解を整理すること。(委員長)

- 深礎の発掘調査で東海道の護岸の土留め跡が出てきたことに関して、状態が良いものは保存処理をして今後の資料や展示に活用するというをお願いし、記録保存でやむを得ないということで前回委員会において見解をまとめた。今回は残るボーリング調査の結果報告であるが、4-2A 街区に関しては基本的に記録保存調査で扱うこととしたい。

(委員長)

→ 異議なし。(委員一同)

(3) 京急連立事業(1工区)に伴う埋蔵文化財調査成果について(報告)

- 資料2について説明する。(東京都)

〈京急連立事業(1工区)調査成果について以下の点を資料説明〉

- これまでの成果では盛土Aの上に埋立土Bが被さる形だったが、今回は盛土Aと埋立土Bの間に自然堆積層と盛土Xが堆積していることを確認

- 今回調査範囲の土丹塊の有無から築堤の構築方法が異なる可能性がある

- 盛土Xは明治9年から埋立てが行われるまでの間に人為的に構築された層ということが想定される

- 今後2区、3区に調査を展開する

- 盛土Aより時期的に新しい盛土Xの解釈はまだ判断できないが人為的に構築されたものであることは興味深い。高輪築堤の構築方法が部分的に異なっていることを補強する成果である。(委員長)

- 盛土Xについて浚渫土なら粒度等の確認が必要である。(古関委員)

← 未確認であり、今後サンプルを取った上で評価する。(東京都)

- 盛土Aの一部が削られている評価で、直感的には人為的に行うか疑問である。内海でも波で削られたりしてこの形になったとも考えられる。他事例で参考になるものはあるか。(古関委員)

← 波の浸食は十分考えられる。西側に築堤が張り出した箇所でもあるので、一度崩れてしまったのではないかという現場の見解もある。(東京都)

← 鉄道の設備管理の立場から言うと波で削られた姿をそのままにすることは考えられず、すぐに補修するのではないか。(JRC)

→ 推測だが土を盛るときに土が流れないようにくぼみを作ったとも思える。海洋土木の専門家に聞くとよい。(小野田委員)

- 盛土Xの年代は今後分かるのか。(JR)

← まだ精査できておらず、2区、3区の調査の中で検討したい。(東京都)

← 盛土Xは埋立土Bより古いことは確実である。(委員長)

(4) 4-1 街区 設備・外構工事計画について

- 資料 3 について説明する。(事務局 JR)
〈4-1 街区の設備・外構工事計画について以下の点を説明〉
 - 主な工事はインフラ配管工事、床仕上・植栽・屋外ファニチャ工事
 - 文化財調査状況は一部未調査箇所が残る
 - 高輪辻広場の設備・外構工事に対して未調査箇所の一部で T.P.+2.8m 以深の掘削を行う
 - 泉岳寺辻広場と新東海道の築堤に支障しない箇所の掘削は港区立ち合いで工事を進め、遺構検出時は工事を止めて再協議とする。高輪辻広場の工事の進め方と遺構の保護については JR と別途協議する。(港区)
- 周知の埋蔵文化財包蔵地に入る箇所なので調査方針を今後検討することになる。港区と協議して進めてもらいたい。(委員長)

(5) 拡張された北横仕切堤の移築保存について

- 資料 4 について説明する。(交通局)
〈拡張された北横仕切堤の移築保存の方向性について以下の点を資料説明〉
 - 移築保存先として地下 1 階部分の壁面を選定
 - 遺構の説明文を掲示する
 - デジタルサイネージで周辺出土遺構の関係性が分かるような展示やエリアマネジメントとの連携も検討中
- 高輪築堤全体でどのような保存・公開・展示を行うか議論している場があるので、今後も連携を取らせてもらいたい。(JR)
- 移築先の地上部には高輪大木戸があり、出土位置付近の再開発事業範囲で車町河岸や旧東海道護岸が発掘されているため、デジタルサイネージ等を用いた情報発信拠点として考えてもらっている。文化財について区民の方や利用者に多くの理解をいただきたいと考えるので引き続き調整をお願いしたい。(東京都)
- 石の再現は石の方向と積み方が重要であるので、堤の南面が展示の南面となるように揃えたり、勾配を適切に再現したりするなど、検討してもらいたい。(小野田委員)
- 駅を降りた人たちが高輪大木戸を見に行く導入部分になるような仕掛けを考えてもらいたい。(委員長)
- 高輪築堤の発掘は、コロナ禍の影響もあり必ずしも多くの人に見てもらえていないため、発掘調査の映像などもデジタルサイネージの中で紹介してもらいたい。内容は様々な形で相談してもらえるとありがたい。(委員長)

(6) その他

＜部会①・部会②・部会③終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。(委員長)
- ← 部会③について、雑魚場架道橋を中心に今後どう評価、保存、調査等していくかみんなで一緒に検討していきたい。(文化庁)
- ← 部会③について、今後も調整を進めていきたい。(東京都)
- ← 区民の関心が高い。部会①の移築保存について泉岳寺駅で遺構を公開してもらえるということであった。部会③のアクセス線は新聞報道以降、港区にも問い合わせが来ている。本日は記録保存やむなしという見解だが、遺構がどう保存されるか、調査されるか、出来る限り早めにプロセスを区民に分かるように進めてもらいたい。(港区)
- アクセス線は夜間調査になるので現地見学は困難である。発掘調査をできるだけリアルタイムで、情報をオープンにしながらか進めていただけるとありがたい。その方が区民の理解を得られる。(委員長)

(7) 閉会

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局 JR) 第 41 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局 JR) 3 つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに指摘をいただきたい。
- (事務局 JR) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会①

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 4-2A 街区 建物杭の調査について (報告)

- (港区) 資料 1 について説明する。4-2A 街区の調査の最終報告である。ボーリング調査について、炭ガラ層が確認されているが、これは EV・ESC ピットの調査や 4-1 街区南横仕切堤付近の調査でも確認された。なぜこの部分にだけあるのかは現時点では分からないが、明治 30 年地図より、水溜と関連するのかと推測している。全てのボーリングコアで自然堆積層を確認しており、粘土採掘坑のような遺構は無いものと想定している。建物の対になる杭は、元々京急本社ビルがあった場所であり解体時に攪乱されているということなので調査は実施していない。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (JR) 調査結果について丁寧にまとめていただき感謝する。こちらの街区については、計画の見直しを検討するようご要望をいただいていたが、まちづくりの拠点となる施設であるため、このまま工事を進めていくことについてご理解をいただきたい。
- (古関委員) 炭ガラ層は、No.3 のどの層なのか。

- (港区) 青っぽいグレーの層である。
- (古関委員) これだけ出てくるのは目的があった訳ではなく、蒸気機関車で使った炭が捨てられた可能性が考えられる。さらに詳しい方に意見をもらって検討するとよいだろう。
- (委員長) 炭ガウ層はこれまでもいくつか検出されているので、それらも含めて見解を整理しておいてもらいたい。
- (委員長) 本件については、建物計画については前回説明頂いた。深礎の発掘調査で東海道の護岸の土留め跡が出てきたことに関して、比較的残りがよかったので現地に残せないかとお願いをしたが、なかなか難しいということであった、そこで状態が良いものは保存処理をして今後の資料や展示に活用するということをお願いし、記録保存でやむを得ないということと前回委員会において見解をまとめた。今回は残りのボーリング調査の報告である。4-2A 街区に関しては基本的に記録保存調査で扱うこととしたい。
- (委員一同) 異議なし。
- (委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(3) 京急連立事業(1工区)に伴う埋蔵文化財調査成果について(報告)

- (東京都) 資料2について説明する。今までのトレンチ成果を見ると、盛土Aの上に埋立土Bという黄緑色で示した層が直接乗る形だったが、今回はさらにその上に、オレンジ色で示した盛土が確認できた。これが盛土Aに対応するものかどうかは現段階では不明なので、これを盛土Xとする。本調査範囲はいずれも盛土Aの下に土丹塊が敷き詰められていたが、トレンチ調査部分では敷き詰められていないので、築堤の構築方法が異なる可能性があると考えている。盛土Xは明治9年から埋立てが行われるまでの間に人為的に構築された層ということが想定され、港トレンチ1と港トレンチ2の間で構築方法が変わったのではないかと考えている。今後2区や3区の方に調査を展開していく。調査にご配慮・ご協力いただいていること御礼申し上げます。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (委員長) 連立1工区ではこれまで南側でトレンチ調査を進めてきたが、北側に調査を展開してきた。盛土Aより時期的には新しい盛土Xをどう解釈するかという問題がある。まだ判断がつかないが、人為的に構築されたものであることは興味深い。高輪築堤が連続的に同じ構造をしているわけではなく、部分的に構築方法が異なっているということを補強する成果であると考えている。
- (古関委員) 盛土Xについて、浚渫土ならば、粒度等は確認しているか。
- (東京都) まだ確認していない。土のサンプルを取るなどして、今後評価していきたい。

- (古関委員) 資料2-3のトレンチ4の断面で、盛土Aの一部が削られているということに対して、人為的にこんなことをするかな、と直感的に思う。例えば内海でも波で削られたりしてこのような形になったと考えられないか。他の事例などを参考に考えられることはあるか。
- (東京都) 削られているところが、ちょうど T.P.±0m 付近なので波で削られたということも十分考えられる。この部分はすいぶん西側に出ているということも気になっていた。一度崩れてしまったのではないかという現場の見解もある。
- (JRC) 設備を管理してきた立場で言うと、波で削られた姿をそのままにするとは考えられない。普通は成形をして、そこに押さえ盛土のようなことをする。推定だが、すぐに補修するのではないか。興味深いことではある。
- (小野田委員) 非常に興味深い報告だが、資料2-3のトレンチ4の北壁の写真で、盛土Xの下の白い層は自然堆積とってよいのか。
- (東京都) そう考えている。
- (小野田委員) 推測だが、土を盛るときに流れ出さないようにくぼみを作って止めたのではないかと思う。削れた部分も埋立てたときに、施工しやすいように削ったということも考えられる。海洋土木的な専門家に聞くとよい。
- (JR) 盛土Xの時期は今後分かるのか。
- (東京都) まだ精査できていない。引き続き、2区、3区の中で検討していきたい。
- (委員長) 盛土Xは埋立土Bより古いということは確実である。
- (委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(4) 4-1 街区 設備・外構工事計画について

- (事務局 JR) 資料3について説明する。今回の説明対象範囲は4-1街区敷地の国道15号線側であり、主な工事としては、設備工事として各種インフラ配管工事、外構工事として床仕上工事・植栽工事・屋外ファニチャ工事を予定している。未調査範囲が残っているエリアのうち、泉岳寺辻広場と新東海道については、遺構に影響しない様に T.P.+2.8mより浅い範囲で掘削とする形で計画を見直した。ただし、高輪辻広場については、建物から出てくるインフラの配管等がある関係で、T.P.+2.8mより深い位置で掘削が必要となる。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (港区) 説明があった工事のうち、泉岳寺辻広場と新東海道の築堤に支障しないであろう掘削については、港区立ち合いのもので工事を進め、遺構が出てきた場合は一旦工事を止めて再協議とする。高輪辻広場の部分は遺構の上部に支障するので、工事の進め方と遺構の保護について、引き続き JR と協議させて頂きたい。

- (委員長) 周知の埋蔵文化財包蔵地のため、調査方針を今後検討していくということになる。今日は工事内容を聞いたということで、今後は港区と協議して進めてもらいたい。
- (委員長) インフラ設備が入ってくるということだが、築堤上部に支障する計画のため、きちんとした調査は必要だと考えている。
- (委員長) 他に何かなければ、この方向で進めてもらうこととする。次に進める。

(5) 拡張された北横仕切堤の移築保存について

- (交通局) 資料4について説明する。過去委員会で拡張された北横仕切堤の出土を報告し、その後、当遺構の保護措置について記録保存はやむを得ないと判断をいただいた。その際に移築や展示など、広く周知する方策を検討するよう指導をいただいた。交通局で対応可能な移築箇所として、地下1階部分の壁面を設定した。北横仕切堤の出土した石材の一部を切り出し、駅コンコース部に移築し、石積を再現しようと考えている。規模としては、幅3m・高さ1.5m程度を想定している。石積みでいうと4段相当になる。また、遺構の説明文を掲示すると共に、デジタルサイネージ等を用いた駅構内の情報発信については、周辺から出土した様々な遺構との関係性が分かるようにエリアマネジメントとの連携も検討している。出土位置付近には当遺構に対する案内板を設置する方向で再開発事業者と調整を進めていく。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (JR) 高輪築堤に関しては、どのような保存・公開・展示をしていくかを全体的に議論していく場があるので、今後も連携を取らせていただけるとありがたい。
- (東京都) 拡張された北横仕切堤については、移築という形で保存にご協力をいただいた。地上部の北側には高輪大木戸という国の史跡がある。出土位置付近については再開発事業が併せて進んでいて、東京都埋蔵文化財センターで発掘調査を進めている。再開発事業区域内では車町の河岸や旧東海道の護岸が発掘されている。交通局の方でもデジタルサイネージ等を用いた情報発信の拠点として位置付けていただいている。文化財について、区民の方や利用者などにも少しでも多く理解いただきたいと考えているので、引き続き調整をさせてもらいたい。
- (小野田委員) 石の再現については、石の方向と積み方が重要である。南面を南面となるよう揃えることや、勾配なども含めて移築再現をしてもらいたい。
- (委員長) 北側コンコース部分は、地上に出るとすぐ脇が高輪大木戸になるので、駅を降りた人たちが高輪大木戸を見に行く導入部分になるような仕掛けを考えてもらいたい。発掘された遺構について、高輪築堤の場合は、コロナ禍の影響もあり必ずしも多くの人に見てもらえていない。発掘調査の映像なども、是非デジタルサイネージの中で紹介していただき

たい。復元された遺構はもちろん大事だが、そこに至る発掘調査のプロセスを一般の人たちが見る機会がなかなかない。発掘調査の報告書は専門的で分かりづらいので、そういうことも考えてもらえるとうれしい。デジタルサイネージの内容については様々な形で相談してもらえるとありがたい。

(委員長) 他に何かなければ、この方向で進めてもらうこととする。次に進める。

(6) その他

(委員長) その他は何かあるか。

<部会①・部会②・部会③終了後>

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 雑魚場架道橋を中心に今後どう評価、保存、調査等していくかみんなで一緒に検討していきたい。

(東京都) 部会③について、今後も調整を進めていきたい。

(港区) 港区は高輪築堤やアクセス線の地元区となるが、区民の関心が高い。交通局の移築保存について検討経過を報告いただいたが、泉岳寺駅の構内に遺構を公開するということがあった。アクセス線は新聞報道以降、港区にも問い合わせが来ている。本日は記録保存やむなしという見解をいただいたが、出来る限り早めに、遺構がどういう風に保存されるか、調査されるかというところを、そのプロセスを区民の皆様に分かるように進めていただければと思っている。

(委員長) アクセス線は夜間調査になるので、現地見学は困難である。発掘調査をできるだけリアルタイムで、情報をオープンにしながら進めていただければありがたい。

(7) 閉会

(委員長) 他になければ部会①を閉会し、部会②に進める。

以上

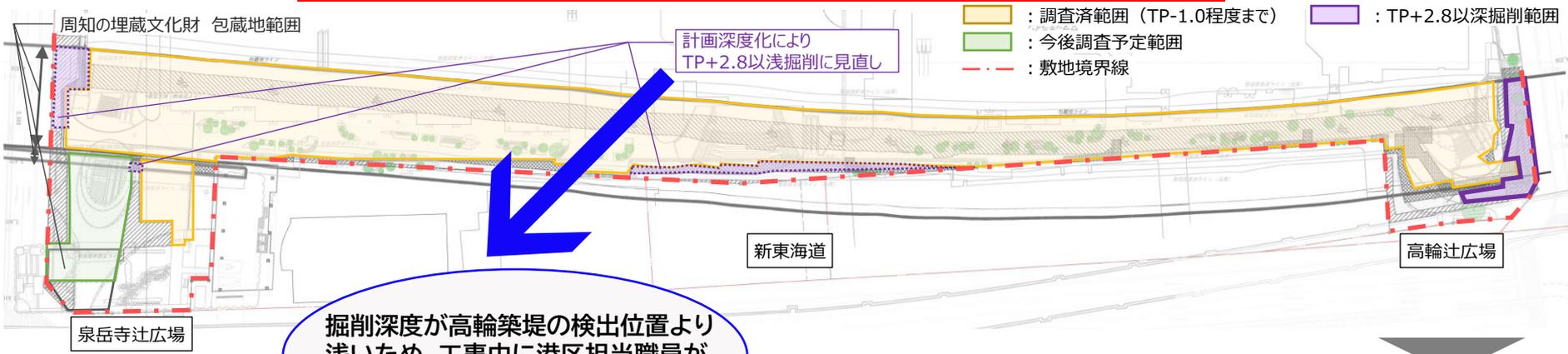
■4-1街区 設備・外構工事計画について

【資料1-1】

資料3-2

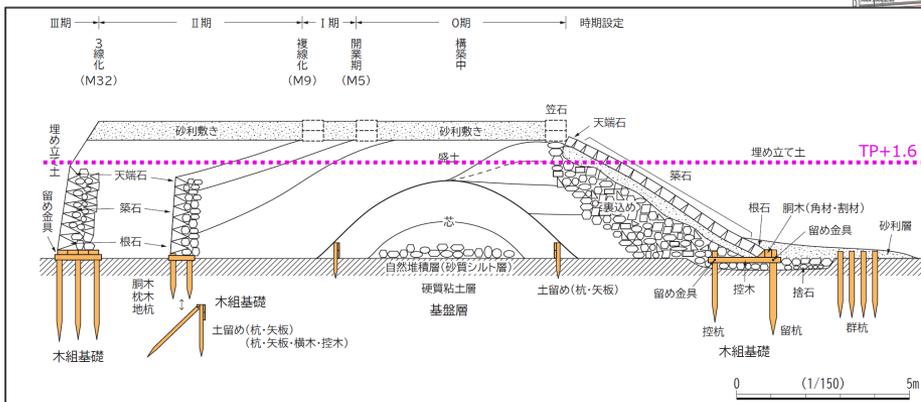
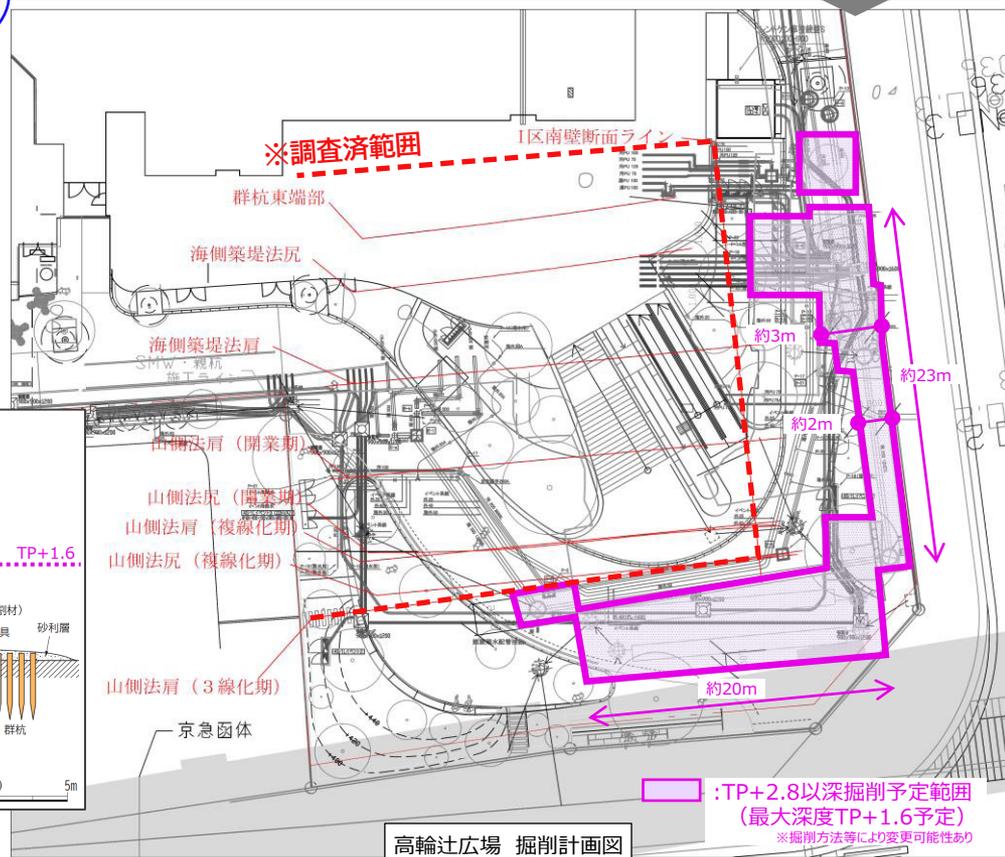
【工事概要】

【再掲】第41回高輪築堤調査・保存等検討委員会(2024.3.6開催)資料に加筆



掘削深度が高輪築堤の検出位置より浅いため、工事中に港区担当職員が立ち会うものとする。

【高輪辻広場 掘削計画】



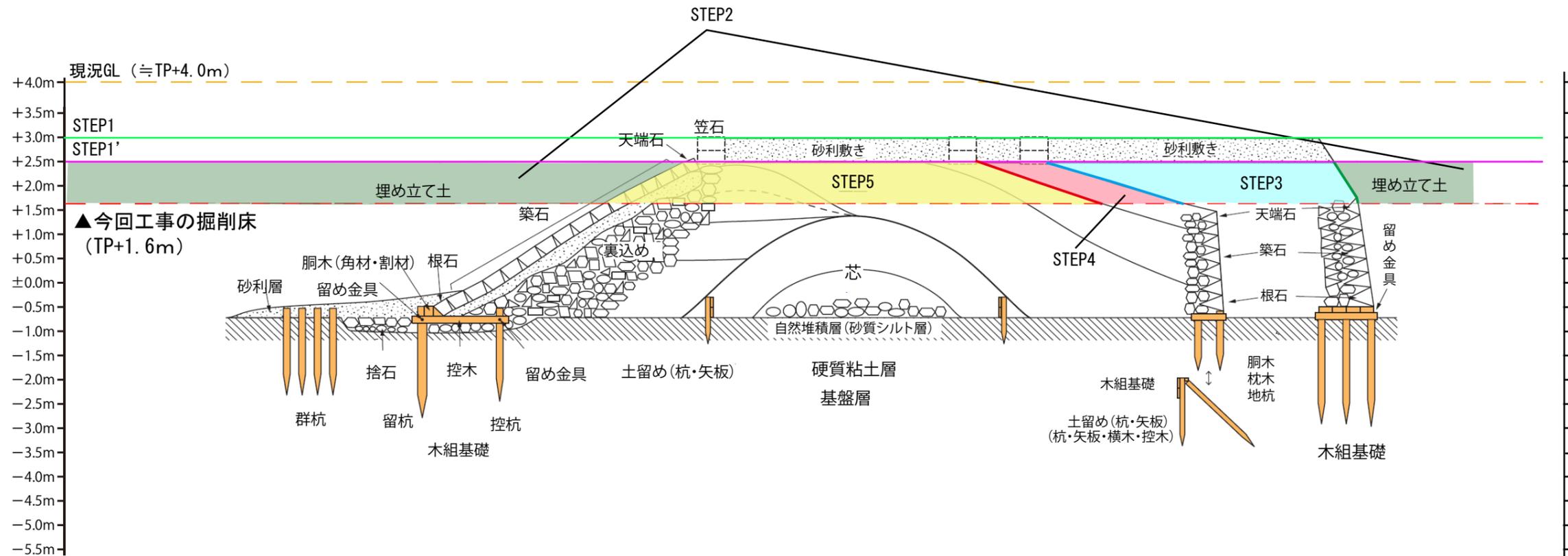
1区南壁断面図

高輪辻広場 掘削計画図

TP+2.8以深掘削予定範囲 (最大深度TP+1.6予定)
※掘削方法等により変更可能性あり

【調査の基本方針】

- ・新しい遺構から順に調査を行う。
- ・盛土上面で遺構の有無を確認する。(例：枕木痕など)
- ・掘削幅が狭い(W=約2.0m)ため、作業者の安全を最優先とする。
- ・調査の状況に応じ、都度調査方法等を検討する。



- STEP1：表土層の除去、遺構確認作業
※表土層が厚い場合はSTEP1'を実施
- STEP2：3線化(明治32年)以降の埋立て土の調査
- STEP3：3線化時の盛土の調査
- STEP4：複線化時(明治9年)の盛土の調査
- STEP5：開業時(明治5年)の盛土の調査